

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公表特許公報 (A)

(11) 特許出願公表番号

特表2018-509063

(P2018-509063A)

(43) 公表日 平成30年3月29日 (2018. 3. 29)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
H04B 7/06 (2006.01)	H04B 7/06	O2O
H04B 7/08 (2006.01)	H04B 7/06	89O
	H04B 7/08	422

審査請求 未請求 予備審査請求 未請求 (全 21 頁)

(21) 出願番号	特願2017-541308 (P2017-541308)	(71) 出願人	595020643 クアルコム・インコーポレイテッド QUALCOMM INCORPORATED アメリカ合衆国、カリフォルニア州 92 121-1714、サン・ディエゴ、モア ハウス・ドライブ 5775
(86) (22) 出願日	平成28年1月7日 (2016. 1. 7)	(74) 代理人	100108855 弁理士 蔵田 昌俊
(85) 翻訳文提出日	平成29年9月12日 (2017. 9. 12)	(74) 代理人	100109830 弁理士 福原 淑弘
(86) 国際出願番号	PCT/US2016/012539	(74) 代理人	100158805 弁理士 井関 守三
(87) 国際公開番号	W02016/126368	(74) 代理人	100112807 弁理士 岡田 貴志
(87) 国際公開日	平成28年8月11日 (2016. 8. 11)		
(31) 優先権主張番号	14/615, 969		
(32) 優先日	平成27年2月6日 (2015. 2. 6)		
(33) 優先権主張国	米国 (US)		

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 ミリメートル波フェーズドアレイシステムの利得を制御するための方法および装置

(57) 【要約】

本明細書で説明されるシステムおよび方法は、ミリメートル波 (MMW) フェーズドアレイシステムにおける効率的なワイヤレス通信を提供する。本システムは複数のアンテナ要素を備え得、複数のアンテナ要素の各々はトランシーバに結合され、トランシーバは少なくとも1つの電力増幅器を有する。本システムは、1つまたは複数のアンテナ要素が遮断されることを示す電力検出器出力に応答して、トランシーバを有効または無効にするように構成された利得コントローラをさらに備え得る。遮断されたアンテナ要素のうちのいくつかのトランシーバを無効にすることは、遮断されないアンテナ要素に関連付けられた電力増幅器が最大効率において動作し続けることを可能にする。

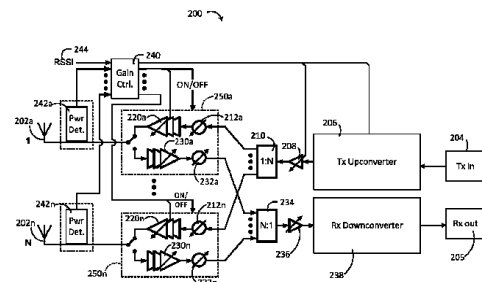


FIG. 2

【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

フェーズドアレイシステムであって、
第 1 のアンテナ要素および第 2 のアンテナ要素と、
第 1 の電力増幅器を有する第 1 のトランシーバと、前記第 1 のトランシーバが前記第 1 のアンテナ要素に動作可能に結合される、
第 2 の電力増幅器を有する第 2 のトランシーバと、前記第 2 のトランシーバが前記第 2 のアンテナ要素に動作可能に結合される、
前記第 1 のアンテナ要素に結合され、第 1 の検出器出力を与えるように構成された第 1 の電力検出器と、
前記第 2 のアンテナ要素に結合され、第 2 の検出器出力を与えるように構成された第 2 の電力検出器と、
前記第 1 のトランシーバと、前記第 1 の電力検出器と、前記第 2 のトランシーバと、前記第 2 の電力検出器とに動作可能に結合された利得コントローラと、前記利得コントローラが、前記第 1 の検出器出力と前記第 2 の検出器出力とに基づいて、前記第 1 のトランシーバおよび前記第 2 のトランシーバのうちの 1 つまたは複数を無効にするように構成される、
を備える、フェーズドアレイシステム。

10

【請求項 2】

前記利得コントローラは、前記第 1 の検出器出力および前記第 2 の検出器出力のうちの 1 つが、前記フェーズドアレイシステムが最大線形実効等方放射電力 (EIRP) の所定の範囲内の状態で動作していることを示すとき、前記第 1 のトランシーバおよび前記第 2 のトランシーバのうちの 1 つまたは複数を有効または無効にするようにさらに構成された、請求項 1 に記載のフェーズドアレイシステム。

20

【請求項 3】

前記利得コントローラは、それぞれの前記第 1 のトランシーバおよび前記第 2 のトランシーバのうちの 1 つまたは複数が無効にされたとき、前記第 1 の電力増幅器および前記第 2 の電力増幅器の最大効率と最大利得とを維持するために、前記第 1 の電力増幅器および前記第 2 の電力増幅器にコマンドを送信するように構成された、請求項 1 に記載のフェーズドアレイシステム。

30

【請求項 4】

前記利得コントローラが、前記第 1 の検出器出力および前記第 2 の検出器出力のそれぞれに応答して、前記第 1 の電力増幅器および前記第 2 の電力増幅器のうちの 1 つまたは複数の利得を調整するようにさらに構成され、

ここにおいて、前記利得が、前記第 1 のトランシーバおよび前記第 2 のトランシーバの出力電力レベルを決定するように構成された、
請求項 1 に記載のフェーズドアレイシステム。

【請求項 5】

3 つ以上のアンテナ要素と 3 つ以上のトランシーバとをさらに備え、前記利得コントローラがさらに、前記 3 つ以上のトランシーバに動作可能に結合された、請求項 1 に記載のフェーズドアレイシステム。

40

【請求項 6】

前記第 1 の検出器出力が、反射電力の測定値に基づいて、前記第 1 のアンテナ要素がいつ妨害されるかを示すように構成された、請求項 1 に記載のフェーズドアレイシステム。

【請求項 7】

前記利得コントローラは、前記第 1 の検出器出力が、前記第 1 のアンテナ要素がもはや妨害されていないことを示すとき、前に無効にされた前記第 1 のトランシーバを有効にするようにさらに構成された、請求項 6 に記載のフェーズドアレイシステム。

【請求項 8】

前記第 1 の検出器出力および前記第 2 の検出器出力が、少なくとも出力電力測定値と受

50

信信号強度とを示すように構成された、請求項 1 に記載のフェーズドアレイシステム。

【請求項 9】

前記第 1 のトランシーバおよび前記第 2 のトランシーバが、それぞれ、送信機と、受信機と、低雑音増幅器とをさらに備える、請求項 1 に記載のフェーズドアレイシステム。

【請求項 10】

フェーズドアレイシステムにおけるワイヤレス通信のための方法であって、前記フェーズドアレイシステムが、少なくとも、第 1 の電力増幅器を有する第 1 のトランシーバに動作可能に結合された第 1 のアンテナ要素と、第 2 の電力増幅器を有する第 2 のトランシーバに動作可能に結合された第 2 のアンテナ要素とを有し、前記方法が、

前記第 1 のトランシーバと前記第 2 のトランシーバとを有効にすることと、

第 1 の電力検出器および第 2 の電力検出器のうちの少なくとも 1 つからの検出器出力を検出することと、

最大効率の所定の範囲において前記フェーズドアレイシステムの動作を維持しながら、前記検出器出力に基づいて、前記第 1 のトランシーバおよび前記第 2 のトランシーバのうちの 1 つまたは複数を無効にすることとを備える、方法。

【請求項 11】

前記検出器出力が、前記フェーズドアレイシステムが最大線形実効等方放射電力 (EIRP) の所定の範囲内の状態で動作していることを示すとき、前記第 1 のトランシーバおよび前記第 2 のトランシーバのうちの 1 つまたは複数を有効または無効にすることをさらに備える、請求項 10 に記載の方法。

【請求項 12】

前記検出器出力に応答して、前記第 1 の電力増幅器および前記第 2 の電力増幅器のうちの 1 つまたは複数の利得を調整することをさらに備え、前記利得が、それぞれの前記第 1 のトランシーバまたは前記第 2 のトランシーバの出力電力レベルを決定する、請求項 10 に記載の方法。

【請求項 13】

前記無効にすることは、アンテナ要素妨害を示す前記第 1 のアンテナ要素および前記第 2 のアンテナ要素のうちの 1 つまたは複数における反射電力の測定値を示す前記検出器出力にさらに基づく、請求項 10 に記載の方法。

【請求項 14】

第 1 の検出器出力または第 2 の検出器出力のそれぞれが、無効にされた第 1 のトランシーバまたは第 2 のトランシーバに関連付けられた前記第 1 のアンテナ要素または前記第 2 のアンテナ要素がもはや妨害されていないことを示すとき、前に無効にされた前記第 1 のトランシーバおよび前記第 2 のトランシーバのうちの 1 つまたは複数を有効にすることをさらに備える、請求項 13 に記載の方法。

【請求項 15】

前記第 1 の電力検出器および前記第 2 の電力検出器のうちの 1 つまたは複数から、出力電力測定値と受信信号強度とを受信することをさらに備える、請求項 10 に記載の方法。

【請求項 16】

前記第 1 のトランシーバおよび前記第 2 のトランシーバの各々が、送信機と、受信機と、低雑音増幅器とをさらに備える、請求項 10 に記載の方法。

【請求項 17】

フェーズドアレイシステムにおけるワイヤレス通信のための装置であって、前記フェーズドアレイシステムが、複数のトランシーバのうちのそれぞれの第 1 のトランシーバおよび第 2 のトランシーバに動作可能に結合された第 1 のアンテナ要素および第 2 のアンテナ要素を有し、前記装置は、

前記第 1 のトランシーバおよび前記第 2 のトランシーバの各々を有効にすることと、

前記複数のトランシーバのうちの残りの有効にされたトランシーバの最大効率を維持しながら、検出器出力に基づいて、前記第 1 のトランシーバおよび前記第 2 のトランシー

10

20

30

40

50

バのうちの１つまたは複数を無効にすることと

を行うための利得制御手段と、

前記利得制御手段に第１の検出器出力を与えるための第１の検出手段と、前記第１の検出手段が前記第１のアンテナに動作可能に結合される、

前記利得制御手段に第２の検出器出力を与えるための第２の検出手段と、前記第２の検出手段が前記第２のアンテナに動作可能に結合される、

を備える、装置。

【請求項１８】

前記第１の検出手段が第１の電力検出器を備え、前記第２の検出手段が第２の電力検出器を備える、請求項１７に記載の装置。

10

【請求項１９】

前記利得制御手段は、前記第１の検出手段または前記第２の検出手段が、前記フェーズドアレイシステムが最大線形実効等方放射電力（ＥＩＲＰ）に近づく状態で動作していることを示すとき、前記第１のトランシーバおよび前記第２のトランシーバのうちの１つまたは複数を有効または無効にするようにさらに構成された、請求項１７に記載の装置。

【請求項２０】

前記利得制御手段が、前記第１の検出器出力または前記第２の検出器出力に応答して、前記第１の電力増幅器および前記第２の電力増幅器のうちの１つまたは複数の利得を調整するための手段をさらに備え、前記利得が、それぞれの前記第１のトランシーバまたは前記第２のトランシーバの出力電力レベルを決定する、請求項１７に記載の装置。

20

【請求項２１】

前記利得制御手段は、前記第１のアンテナ要素および前記第２のアンテナ要素のうちの１つまたは複数におけるアンテナ要素妨害を示す前記第１の検出手段または前記第２の検出手段に基づいて、前記第１のトランシーバおよび前記第２のトランシーバのうちの１つまたは複数を無効にするようにさらに構成された、請求項１７に記載の装置。

【請求項２２】

前記利得制御手段は、前記第１の検出手段の出力および前記第２の検出手段のうちのそれぞれの１つが、無効にされた第１のトランシーバまたは第２のトランシーバに関連付けられた前記第１のアンテナ要素または前記第２のアンテナ要素がもはや妨害されていないことを示すとき、前に無効にされた前記第１のトランシーバおよび前記第２のトランシーバのうちの１つまたは複数を有効にするようにさらに構成された、請求項２１に記載の装置。

30

【請求項２３】

前記利得制御手段が、前記第１の検出手段および前記第２の検出手段のうちの１つまたは複数から、前記第１のアンテナおよび前記第２のアンテナの受信信号強度指示と出力電力レベルとを受信するための手段をさらに備える、請求項１７に記載の装置。

【請求項２４】

前記フェーズドアレイシステムが３つ以上のアンテナと３つ以上のトランシーバとを備える、請求項１７に記載の装置。

【請求項２５】

40

フェーズドアレイシステムであって、

複数のアンテナ要素と、前記複数のアンテナ要素の各アンテナ要素が複数のトランシーバのうちのそれぞれのトランシーバに結合され、各トランシーバが、調整可能利得をもつ少なくとも１つの電力増幅器を有する、

前記複数のアンテナ要素の各アンテナ要素に結合され、検出器出力を与えるように構成された電力検出器と、前記検出器出力が、前記複数のアンテナ要素のうちのそれぞれのアンテナ要素における少なくとも出力電力レベルと反射エネルギーレベルとを示すように構成されている、

前記複数のトランシーバのうちのトランシーバの各々に、および各電力検出器に動作可能に結合された利得コントローラと

50

を備え、前記利得コントローラが、

前記検出器出力を受信することと、前記検出器出力に基づいて、

前記フェーズドアレイシステムのための選択された送信電力レベルを達成するように１つまたは複数の選択された電力増幅器の前記調整可能利得を調整することと、

前記複数のトランシーバのうちの前記トランシーバのうちの１つまたは複数の有効または無効にすることと

を行うように構成された、フェーズドアレイシステム。

【請求項 26】

前記利得コントローラは、前記検出器出力が、前記フェーズドアレイシステムが最大線形実効等方放射電力（EIRP）に近づく状態で動作していることを示すとき、前記複数のトランシーバのうちの前記トランシーバのうちの１つまたは複数の有効または無効にするようにさらに構成された、請求項 25 に記載のフェーズドアレイシステム。

10

【請求項 27】

複数の有効にされた電力増幅器は、前記複数のトランシーバのうちの他のトランシーバのうちの１つまたは複数の無効にされるとき、最大効率および最大利得において連続的に動作する、請求項 25 に記載のフェーズドアレイシステム。

【請求項 28】

前記利得コントローラは、前記検出器出力が、前記複数のアンテナ要素のうちの少なくとも１つのアンテナ要素の妨害を示す前記複数のアンテナ要素のうちの１つまたは複数における反射電力の測定値、を示すとき、前記複数のトランシーバのうちの１つまたは複数のトランシーバを無効にするように構成された、請求項 25 に記載のフェーズドアレイシステム。

20

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

[0001]本開示は一般にワイヤレス通信に関する。より詳細には、本開示は、ミリメートル波フェーズドアレイ通信システム（millimeter wave phased array communication systems）に関する。

【背景技術】

【0002】

30

[0002]ミリメートル波（MMW：Millimeter wave）送信は見通し線（line-of-sight）に沿って進み、建築物の壁によって遮断され（blocked）、または群衆によって減衰され得る。高い自由空間損失および大気吸収（atmospheric absorption）は、伝搬を数キロメートルに制限することがある。したがって、MMWは、周波数再利用によってスペクトル利用を改善する、パーソナルエリアネットワークなどの極めて稠密な通信ネットワークのために有用である。

【0003】

[0003]MMW送信の比較的高い減衰により、受信された送信の精度および利得を増加させるために、複数アンテナアレイが使用され得る。アンテナアレイのうちのいくつかは、多入力、多出力（MIMO）アンテナアレイ、またはフェーズドアレイシステムであり得る。

40

【発明の概要】

【0004】

[0004]本開示の一態様は、第１のアンテナ要素と第２のアンテナ要素とを備える、フェーズドアレイシステムを提供する。第１のトランシーバが、第１の電力増幅器を有し、第１のアンテナ要素に動作可能に結合され得る。第２のトランシーバが、第２の電力増幅器を有し、第２のアンテナ要素に動作可能に結合され得る。第１の電力検出器が、第１のアンテナ要素に結合され、第１の検出器出力を与えることができる。第２の電力検出器が、第２のアンテナ要素に結合され、第２の検出器出力を与えることができる。利得コントローラが、第１のトランシーバと、第１の電力検出器と、第２のトランシーバと、第２の電

50

力検出器とに動作可能に結合され得る。利得コントローラは、第1の検出器出力と第2の検出器出力とに基づいて、第1のトランシーバおよび第2のトランシーバのうちの1つまたは複数を無効にすることができる。

【0005】

[0005]本開示の別の態様は、フェーズドアレイシステムにおけるワイヤレス通信のための方法を提供する。フェーズドアレイシステムは、少なくとも、第1の電力増幅器を有する第1のトランシーバに動作可能に結合された第1のアンテナ要素と、第2の電力増幅器を有する第2のトランシーバに動作可能に結合された第2のアンテナ要素とを有することができる。本方法は、第1のトランシーバと第2のトランシーバとを有効にすることを備え得る。本方法は、第1の電力検出器および第2の電力検出器のうちの少なくとも1つからの検出器出力を検出することをさらに備え得る。本方法は、最大効率の所定の範囲においてアンテナアレイの動作を維持しながら、検出器出力に基づいて、第1のトランシーバおよび第2のトランシーバのうちの1つまたは複数を無効にすることをさらに備え得る。

【0006】

[0006]本開示の別の態様は、フェーズドアレイシステムにおけるワイヤレス通信のための装置を提供する。フェーズドアレイシステムは、複数のトランシーバのうちのそれぞれの第1のトランシーバおよび第2のトランシーバに動作可能に結合された第1のアンテナ要素および第2のアンテナ要素を有することができる。本装置は、第1のトランシーバおよび第2のトランシーバの各々を有効にするための利得制御手段を備え得る。利得制御手段は、さらに、有効にされたトランシーバの最大効率を維持しながら、検出器出力に基づいて、第1のトランシーバおよび第2のトランシーバのうちの1つまたは複数を無効にすることができる。本装置は、利得制御手段に第1の検出器出力を与えるための第1の検出手段をさらに備え得る。第1の検出手段は、第1のアンテナに動作可能に結合され得る。本装置は、利得制御手段に第2の検出器出力を与えるための第2の検出手段をさらに備え得る。第2の検出手段は、第2のアンテナに動作可能に結合され得る。

【0007】

[0007]本開示の別の態様は、複数のアンテナ要素を備えるフェーズドアレイシステムを提供する。複数のアンテナ要素の各アンテナ要素は、複数のトランシーバのうちのそれぞれのトランシーバに結合され得る。各トランシーバは、調整可能利得をもつ少なくとも1つの電力増幅器を有することができる。電力検出器が、複数のアンテナ要素の各アンテナに結合され、検出器出力を与えるように構成され得る。検出器出力は、複数のアンテナ要素のうちのそれぞれのアンテナ要素における少なくとも出力電力レベルと反射エネルギーレベルとを示すように構成され得る。利得コントローラは、複数のトランシーバのうちのトランシーバの各々に、および各電力検出器に動作可能に結合され得る。利得コントローラは検出器出力を受信することができる。利得コントローラは、さらに、検出器出力に基づいて、フェーズドアレイシステムのための選択された送信電力レベルを達成するように1つまたは複数の選択された電力増幅器の調整可能利得を調整することができる。利得コントローラは、さらに、検出器出力に基づいて、複数のトランシーバのうちのトランシーバのうちの1つまたは複数を有効または無効にすることができる。

【0008】

[0008]本発明の他の特徴および利点は、例として、本発明の態様を示す以下の説明から明らかであろう。

【0009】

[0009]本開示の詳細は、その構造と動作の両方について、添付の図面の検討によって部分的に収集され得、同様の参照番号は同様の部分を指す。

【図面の簡単な説明】

【0010】

【図1】[0010]例示的なフェーズドアレイシステムの総伝送効率対実効等方放射電力（EIRP：effective isotropically radiated power）の一例を示すプロット図。

【図2】[0011]本開示による、フェーズドアレイシステムの例示的な実施形態の機能プロ

10

20

30

40

50

ック図。

【図 3】[0012]図 2 の例示的なフェーズドアレイシステムの総伝送効率 (total transmission efficiency) の一例を示すプロット図。

【図 4 A】[0013]本開示による、フェーズドアレイシステムにおける最適な効率を維持するためにトランシーバを選択的に無効にするための例示的な方法を示すフローチャート。

【図 4 B】[0014]フェーズドアレイシステムにおける最適な効率を維持するためにトランシーバを選択的に無効にするための別の実施形態を示すフローチャート。

【詳細な説明】

【0011】

[0015]添付の図面に関して以下に記載される詳細な説明は、様々な構成を説明するものであり、本明細書で説明される概念が実施され得る構成のみを表すものではない。詳細な説明は、様々な概念の完全な理解を与えるための具体的な詳細を含む。ただし、これらの概念はこれらの具体的な詳細なしに実施され得ることが当業者には明らかであろう。いくつかの事例では、よく知られている構造および構成要素は、説明を簡潔にするために簡略化された形態で示されている。

【0012】

[0016]ミリメートル波 (mmW または MMW) 送信は、一般に、電磁スペクトルの 30 ~ 300 ギガヘルツ周波数内に入ると考えられる。この範囲は、極高周波数 (EHF: Extremely High Frequency) 範囲と呼ばれることもある。EHF は、無線周波数の帯域のための国際電気通信連合 (ITU) 名称であり、それを上回る電磁放射は、テラヘルツ放射とも呼ばれる、遠赤外光であると見なされる。MMW 帯域内の電波は、約 1 から 10 ミリメートルまでの波長を有し、これにより、ミリメートル帯域またはミリメートル波という名前が与えられている。

【0013】

[0017]MMW 放射の送信周波数および波長により、MMW システムは、大気吸収および減衰を受けやすいことがある。MMW 送信は、構造物 (たとえば、壁および建築物)、あるいは群衆または降水などの他の自然現象によって妨げられるかまたは減衰され得る。したがって、いくつかの MMW システムは、ワイヤレスシステムの利得を増加させ、余分の伝搬経路損失を補償するために、フェーズドアレイなどのアンテナアレイを使用し得る。したがって、MMW システムは、さもなければ減衰される信号の強度を高めるように、受信機と送信機の両方の利得 (G) を調整するように構成され得る。

【0014】

[0018]フェーズドアレイアンテナは、送信された放射を「ステアリング」し、複数のビームまたは送信「ローブ」を作成するために、送信されたエネルギーの位相および大きさを使用する複数のアンテナ要素を備え得る。送信されたエネルギーは、送信フェーズドアレイ要素の平面にわたる電磁エネルギーにおける位相および大きさの変動から生じる、強め合うまたは弱め合う干渉 (constructive or destructive interference) を活用することによって、ステアリングまたはダイレクトされ (directed) 得る。

【0015】

[0019]MMW システムは、低雑音増幅器 (LNA)、電力増幅器 (PA)、ミキサ、および中間周波数 (IF) / ベースバンド (BB) 増幅器など、複数の内部構成要素により実装されるプログラマブル利得で構成され得る。フェーズドアレイアンテナからの総放射エネルギーは、次いで、様々な PA、LNA、または同様の構成要素の利得を調整することによって制御され得る。しかしながら、増幅構成要素の利得を調整することによる送信機電力の低減は、あるレベルで、構成要素の効率を低減し、準最適性能および電力損失を生じることがある。たとえば、1 つまたは複数のアンテナ要素の PA の利得が、総送信電力を減少させるために低減されるとき、PA バイアスは A 級増幅器動作へシフトする。これはまた、負荷インピーダンスを、最適な、整合したインピーダンスから離れてシフトし得る。

【0016】

[0020] 図 1 は、本開示による、例示的なフェーズドアレイシステムの総伝送効率対実効等方放射電力 (EIRP) (total transmission efficiency versus effective isotropically radiated power) の一例を示すプロット図である。垂直 (y) 軸は総伝送効率であり、水平 (x) 軸は EIRP である。EIRP は、デシベル、特に dBm、または 1 ミリワット (mW) を基準とする測定電力のデシベルでの電力比換算で (in terms of) 参照され得る。EIRP は、代替的に、1 ワット (W) を基準とする、dBW 換算で (in terms of dBW) 参照され得る。

【0017】

[0021] 本明細書で説明されるように、EIRP は、概して、(すべての方向において電力を一様に分散する) 理論等方性アンテナ (theoretical isotropic antenna) が、最大アンテナ利得の方向において観測されるピーク電力密度を生成するために放出する電力量を指すことがある。いくつかの実施形態では、EIRP は、いくつかの送信構成要素 (たとえば、LNA、PA など) およびコネクタ内で生じる損失を考慮に入れ得、アンテナ要素またはアンテナアレイ全体の利得を含む。EIRP は、しばしば、等価信号強度をもつ等方性送信機 (isotropic transmitter) によって放出された基準電力を上回るデシベル (dBm、dBW) 換算で (in terms of decibels) 示される。EIRP は、異なるタイプのエミッタあるいは異なるサイズまたは形態を有するエミッタ間の比較のために有用であり得る。

【0018】

[0022] プロット 100 によって記述される例示的なフェーズドアレイシステムは、固定数の有効にされたフェーズドアレイアンテナ要素を仮定する。たとえば、図 1 のプロット 100 を生成し得るフェーズドアレイは、所与の送信中に常に有効にされる 8 つのアンテナ要素を有し得る。

【0019】

[0023] 図示のように、プロット 100 は、結果として生じるシステム EIRP の線形性が減少するにつれて、システムの伝送効率が増加することを示す。最大線形 EIRP 110 は、システムが線形性要件を満たす、最大 EIRP と呼ばれることがある。所与のシステムが、最大線形 EIRP 100 を下回る電力レベルで送信することを必要とされる場合、フェーズドアレイ要素の PA のうちの 1 つまたは複数の利得は低減され、フェーズドアレイ全体の全体的電力レベルを低減し得る。いくつかの実施形態では、これは、システムが所与の出力電力について必要な電力よりも多くの電力を消費し得るので、全体的システム効率の低減を生じることがある。

【0020】

[0024] 図 2 は、フェーズドアレイシステムの一実施形態の機能ブロック図である。図示のように、フェーズドアレイシステム 200 は、複数のアンテナ要素 (要素) 202a ~ 202n (まとめて、要素 202) を含み得る。アンテナ要素 202 の各々は、概して、それぞれ、個々のアンテナと見なされ得る。

【0021】

[0025] アンテナ要素 202 は 202a、202n と標示され、たとえば、図示のように、アンテナ要素 1 : N など、任意の数のアンテナ要素 202 が存在し得ることを示す。図示のように、省略記号と同様の一連の 3 つのドットが、図 2 の要素の反復部分を示す。これは、図 2 中のいくつかの場所に示されている。いくつかの実施形態では、アンテナ要素 202 の各々は、以下で説明される様々な構成要素を介して、送信機入力と受信機出力とに動作可能に接続され得る。この実施形態では、アンテナ要素 202 の各々は、本明細書で開示されるように、MMW 送信を送信および受信するように構成される。

【0022】

[0026] フェーズドアレイシステム 200 は、送信機入力 (Tx in) 204 を含み得る。いくつかの実施形態では、Tx in 204 は、モバイル電子デバイス中の (フェーズドアレイシステム以外の) 無線機の他の要素など、いくつかの電子機器からの信号源からの送信機入力を表し得る。送信機入力は、無線周波数 (RF) 送信、または受信機への

送信のための他の同様の入力であり得る。

【 0 0 2 3 】

[0027] T_x $i n 2 0 4$ は、送信機 (T_x) アップコンバータ 2 0 6 に動作可能に結合される。 T_x アップコンバータ 2 0 6 は、MMWフェーズアレイシステム 2 0 0 が動作している周波数帯域に入力を変換するように構成された、いくつかの副構成要素を含み得る。

【 0 0 2 4 】

[0028] T_x アップコンバータ 2 0 6 は、必要に応じて、アップコンバートされた信号を増幅するように構成された少なくとも 1 つの送信機可変利得増幅器 ($T_x V G A$) 2 0 8 に動作可能に接続され得る。 $T_x V G A$ 2 0 8 は、電力スプリッタ 2 1 0 に動作可能に結合され得る。電力スプリッタ 2 1 0 は、 $T_x V G A$ 2 0 8 からの入来信号を、アンテナ要素 2 0 2 a ~ 2 0 2 n の各々への送信のために、 n 個の部分にスプリットするように構成され得る。いくつかの実施形態では、電力スプリッタ 2 1 0 は、アンテナ要素 2 0 2 の各々による送信のために、信号を等量部分にスプリットし得る。スプリットされた信号の各部分は、次いで、図示のように、 T_x 位相シフタ 2 1 2 a ~ 2 1 2 n に与えられ得る。 T_x 位相シフタ 2 1 2 a ~ 2 1 2 n (まとめて、 T_x 位相シフタ 2 1 2) は、それらが、フェーズドアレイシステム 2 0 0 の (たとえば、フェーズドアレイビームフォーミングのための) 所望の送信方向を生成するために必要に応じて受信する、信号の位相をシフトするように構成され得る。 T_x 位相シフタ 2 1 2 は、多段電力増幅器 ($P A$) 2 2 0 a ~ 2 2 0 n (まとめて、 $P A$ 2 2 0) など、電力増幅器に動作可能に結合され得る。 $P A$ 2 2 0 は、矢印によって示された、プログラマブル利得を有する電力増幅器の 1 つまたは複数の段を含み得る。利得は、以下で説明されるように、コントローラによってプログラムされ得る。 $P A$ 2 2 0 の各々は、対応するアンテナ要素 2 0 2 a ~ 2 0 2 n に動作可能に接続され得る。したがって、 $P A$ 2 2 0 は、アンテナ要素 2 0 2 から送信される信号の電力レベルに直接影響を及ぼし得る。

【 0 0 2 5 】

[0029] いくつかの実施形態では、 $P A$ 2 2 0 と要素 2 0 2 との間の接続は、(図示のように) 切替え接続 (switched connection) であり、それは、アンテナ要素 2 0 2 の各々が信号を送信することと信号を受信することとの間で切り替わることを可能にする。

【 0 0 2 6 】

[0030] 一実施形態では、アンテナ要素 2 0 2 の各々は、同じ切替え接続を介して、多段低雑音増幅器 ($L N A$) 2 3 0 a ~ 2 3 0 n (まとめて、 $L N A$ 2 3 0) に動作可能に接続され得る。MMW送信の比較的高い減衰により、 $L N A$ 2 3 0 の各々は、低雑音増幅の 1 つまたは複数の段を含み得、アレイシステム 2 0 0 の残りに使用可能信号を与える。 $L N A$ 2 3 0 は、アンテナ要素 2 0 2 の各々において受信される入来信号に、 R_x 位相シフタ 2 3 2 a ~ 2 3 2 n (まとめて、 R_x 位相シフタ 2 3 2) に動作可能に接続され得る。 R_x 位相シフタ 2 3 2 の各々は、さらに、 $R_x V G A$ 2 3 6 にさらに動作可能に接続され得る電力コンバイナ 2 3 4 に、位相シフトされた信号を与え得る。 $R_x V G A$ 2 3 6 は、 R_x ダウンコンバータ 2 3 8 へのさらなる送信のために、組み合わせられた受信信号の利得を調整し得る。 R_x ダウンコンバータ 2 3 8 は、さらに、受信機出力 ($R_x o u t$) 2 0 5 に動作可能に結合され得る。 $R_x o u t$ 2 0 5 は、所与のモバイルデバイスまたは他の適用可能なシステムによって必要とされるさらなる分析または変換を受け得る RF 出力に類似し得る。

【 0 0 2 7 】

[0031] 一実施形態では、フェーズドアレイシステム 2 0 0 は、利得コントローラ 2 4 0 をさらに含む。利得コントローラ 2 4 0 は、 $P A$ 2 2 0 の各々に動作可能に結合され、 $P A$ 2 2 0 の可変利得を制御するように構成され得る。そのような調整は、アンテナ要素 2 0 2 との最適なまたは整合したインピーダンスを維持する際に有益であり得る。利得コントローラ 2 4 0 はまた、電力検出器 2 4 2 a ~ 2 4 2 n (まとめて電力検出器 2 4 2) からいくつかの入力を受信するように構成され得る。電力検出器 2 4 2 の各々は、アンテナ

10

20

30

40

50

要素 2 0 2 のアレイにわたる送信電力レベルまたは受信電力レベルの推定値を与えるために、それぞれのアンテナ要素 2 0 2 に動作可能に結合され得る。電力検出器 2 4 2 は、アンテナ要素 2 0 2 における入射 R F エネルギーと反射 R F エネルギーの両方を測定するように構成され得る。たとえば、反射 R F エネルギーは、アンテナ要素 2 0 2 a において送信され、アンテナ要素 2 0 2 a に、反射されて戻されたエネルギーであり得る。反射エネルギーは、モバイルワイヤレスデバイス（たとえば、U E ）の場合のような手による遮断など、アンテナ妨害または遮断（antenna obstruction or blockage）を示し得る。

【 0 0 2 8 】

[0032] 利得コントローラ 2 4 0 はまた、受信信号強度指示（R S S I）2 4 4 を受信するように構成され得る。R S S I 2 4 4 は、アレイシステム 2 0 0 において受信された全体的または平均信号強度指示であり得る。利得コントローラ 2 4 0 に入力される R S S I 2 4 4 は、さらに、各アンテナ要素 2 0 2 における電力レベル測定値の各々のための基準値を与え得る。そのような基準値は、さらに、受信信号または送信信号の方向の決定のためにアレイシステム 2 0 0 にとって有用であり得る。一実施形態では、R S S I 2 4 4 は、電力検出器 2 4 2 によって与えられ得る。

【 0 0 2 9 】

[0033] いくつかの実施形態では、電力検出器 2 4 2 は、各アンテナ要素 2 0 2 に容量結合され、（たとえば、各アンテナ要素 2 0 2 中の）チャンネルごとの送信電力を測定するように構成され得る。電力検出器 2 4 2 はまた、手または他の物体によるアンテナの遮断を検出するために、所与のアンテナ要素 2 0 2 のための入射波（エネルギー）と反射波（エネルギー）の両方をさらに測定するために、結合された伝送線路に基づき得る。

【 0 0 3 0 】

[0034] そのような実施形態は、個々のアンテナ要素 2 0 2 送信電力の測定値に基づいて、および / または R S S I 2 4 4 を監視することによって、個々のアンテナ要素 2 0 2 の利得を制御し得る。利得コントローラ 2 4 0 は、さらに、アンテナ要素 2 0 2 を個々に無効にすることなしに、要素単位で（たとえば、アンテナ要素 2 0 2 ごとに）個々に電力増幅器 2 2 0 利得を調整することによって、アンテナ送信電力を変化させ得る。そのような実施形態は、さらに、受信信号の電力レベルを適宜に調整するために、L N A 2 3 0 の利得を変化させ得る。

【 0 0 3 1 】

[0035] しかしながら、図 1 中において上述のように、P A 2 2 0 利得を調整または低減することによって、送信機電力（たとえば、アンテナ要素 2 0 2 の送信電力レベル）を低減することは、P A 2 2 0 の出力電力がその電力消費よりも速く減少するので、アレイシステム 2 0 0 の全体的効率を低減する。いくつかの実施形態では、P A 2 2 0 の出力電力はバイアス電流の 2 乗に比例し、電力消費はバイアス電流に比例する。この状況は、たとえば、フェーズドアレイシステム 2 0 0 が電話（phone）またはタブレットなどのユーザ機器（U E）において実装されたとき、起こり得る。そのような実施形態では、ユーザの手が、アレイシステム 2 0 0 の一部分を遮断し得る。したがって、M M W フェーズドアレイシステム 2 0 0 システムは、アレイシステム 2 0 0 中のアンテナ要素 2 0 2 の一部または全部の送信遮断について調整し得る。しかしながら、そのような遮断されたアンテナを介した信号の送信または試みられた受信は、電力の著しい浪費を生じ得る。

【 0 0 3 2 】

[0036] 利得コントローラ 2 4 0 は、さらに、複数のトランシーバブロック（トランシーバ）2 5 0 a ~ 2 5 0 n（まとめて、トランシーバ 2 5 0）に動作可能に結合され得る。トランシーバ 2 5 0 は、本明細書で説明されるように、少なくとも、T x 位相シフタ 2 1 2 および P A 2 2 0 の各ペア、ならびに R x 位相シフタ 2 3 2 および L N A 2 3 0 の各ペアの集合的な機能を指すことがある。トランシーバ 2 5 0 は破線で示されており、少なくとも、説明される 4 つの要素の機能を指すことがある。たとえば、トランシーバ 2 5 0 a は、T x 位相シフタ 2 1 2 a、P A 2 2 0 a、L N A 2 3 0 a、および R x 位相シフタ 2 3 2 a の機能を指す。一実施形態では、本明細書で開示されるトランシーバ 2 5 0 はまた

、波形生成／送信および受信構成要素、たとえば、PA 220およびLNA 230を指すことがある。別の実施形態では、トランシーバ250は、アンテナ要素202からエネルギーを送信および受信するように構成された送信機／受信機ペアを指すことがある。別の実施形態では、トランシーバ250は、特定のアンテナ要素202（たとえば、アンテナ要素202a）からの送信または受信動作中に、アレイシステム200から電力を引き出す構成要素を指すことがあり、たとえば、トランシーバ250aが無効にされたとき、電力はアンテナ要素202aから送信されず、トランシーバへの電力は最小限に抑えられる。

【0033】

[0037]動作中、利得コントローラ240は、必要に応じて、1つまたは複数のそれぞれのトランシーバ250を除去する（remove）か、またはさもなければ非アクティブにするようにさらに構成され得る。そのような動作は、オンオフ電力スイッチと同様であり得る。これは、選択されたトランシーバ250から電力を選択的に除去することによって、アレイシステム200全体の効率および送信電力レベルを最適化するように働き得る。

【0034】

[0038]一実施形態では、および以下で図3に関して説明されるように、遮断されたアンテナ要素202aの存在下で、利得コントローラ240は、電力検出器242から電力レベルに関する電力情報を受信し得る。その情報は、アンテナ要素202のうちの1つまたは複数の遮断されているか、またはさもなければ妨害されていることを、利得コントローラ240に示し得る。応答して、利得コントローラは、たとえば、いくつかの遮断されたアンテナ（たとえば、アンテナ要素202）に対応する、いくつかのアンテナ要素202を無効にし得る。したがって、利得コントローラ240は、関連付けられたトランシーバブロック250aから電力を除去する。その結果、電力はアンテナ要素202aに送出されないことがある。これは、後述のように、システム全体（たとえば、アレイシステム200）の電力消費を低減するように働き得る。いくつかの実施形態では、利得コントローラ240は、システム200の最大効率を維持するために、遮断された（1つまたは複数の）アンテナ要素202に反応して、他のPA 220のうちの1つまたは複数の利得をコンカレントに調整し（たとえば、上げまたは下げ）得る。

【0035】

[0039]図3は、図2の例示的なフェーズドアレイシステムの総伝送効率の一例を示すプロット図である。図示のように、プロット図300は、y軸に沿った総伝送（Tx）効率とともに、x軸に沿ったEIRPを示す。プロット図100（図1）と同様に、EIRPの単位は、dBm / dBW換算で参照され得る。

【0036】

[0040]図300は、図100と同様である点線302を含み、PA 220における調整可能利得を組み込んだフェーズドアレイシステム（たとえば、アレイシステム200）の効率を示す。点線302は、ポイント304における最小効率を有する最小EIRPから、図300の右側における（破線で示された）最大線形EIRP 306まで増加する。

【0037】

[0041]図300はまた、本開示の一実施形態に従って動作させられるアレイシステム200（図2）の伝送効率を示すライン320を示す。ライン320は、曲線の左側のポイント322において開始し、ポイント324において最大総効率までEIRPを増加させる。ポイント324は、ポイント304と同じまたは同様の効率を有し得るが、より低い最大EIRPにおいてである。

【0038】

[0042]そのような実施形態によれば、いくつかのアンテナ要素202を無効にすることによって、信号はそれらのアンテナ要素202から受信および／または送信されない。選択された受信機／送信機ペア（たとえば、要素202a）を無効にすることによって、ある空間的方向におけるアレイシステム200の総利得は、 $20 * \log(N_{\text{enabled}})$ として変化させられ、ここで、 N_{enabled} は、アレイシステム200中の有効にされたアン

10

20

30

40

50

テナの数である。利得は、有効にされたチャネル（たとえば、アンテナ要素 202）の電力増幅器 220 が、最大効率で、最大利得設定で動作し続け得るように変化させられる。

【0039】

[0043]たとえば、アレイシステム 200 が 8 つのアンテナ要素 202 を有する場合、個々のアンテナ要素 202 を有効または無効にすることは、利得コントローラ 240 が、1 つ～8 つの有効にされた要素 202 の各々についてアレイシステム 200 の全体的利得を増分的に $G + 0 \text{ dB}$ 、 $G + 6 \text{ dB}$ 、 $G + 9.5 \text{ dB}$ 、 $G + 12 \text{ dB}$ 、 $G + 14 \text{ dB}$ 、 $G + 15.6 \text{ dB}$ 、 $G + 16.9 \text{ dB}$ 、および $G + 18 \text{ dB}$ に設定することを可能にし得、ここで、 G はオフセット利得である。これは、有効にされた電力増幅器 220 のバイアスまたは出力電力に影響を及ぼすことなしに可能であり得る。 N_{enabled} が 1 に近づくとき、アンテナ要素 202 を有効または無効にするときの利得の変動は、ポイント 330 において示されるドロップなど、大きくなる。したがって、利得コントローラ 240 は、有効にされた PA_{220} の利得を、中間電力 ($EIRP$) レベルおよび関連付けられた効率に調整し得る。

【0040】

[0044]右から左へ見ると、図 3 は、単一のトランシーバ 250 を無効にすることの効果におけるそのような対数的増加を示す。ポイント 304 において、システム 200 は、最大効率および最大 $EIRP$ において動作している。一実施形態では、これは、トランシーバ 250 a ~ n（および対応する PA_{220} ）の全部がすべて最大利得において機能していることを示し得る。アンテナ要素 202 のうちの 1 つまたは複数が遮断される場合、電力検出器 242 のうちの 1 つまたは複数は、アンテナ要素 202 のうちの 1 つまたは複数の部分的な妨害があることを、利得コントローラに示し得る。利得コントローラ 240 は、次いで、 $EIRP$ がポイント 314 に低減されるまで、システム効率に影響を及ぼすことなしに 1 つまたは複数のトランシーバの非アクティブ化を指令し得、ポイント 314 未満では、追加のトランシーバを非アクティブにする（たとえば、オフにする）ことは、所望よりも大きい $EIRP$ ステップを生じる。ポイント 314 において、別のトランシーバを完全に非アクティブにすることから起こり得るよりも小さい増分 (increments) での $EIRP$ における漸次的低減が必要とされる場合、利得コントローラ 240 は、有効にされた PA_{220} a ~ n のうちの 1 つまたは複数の利得の減少を指令し得る。利得の減少は、ポイント 315 に向かって、 $EIRP$ および効率の減少を生じ得る。

【0041】

[0045]ポイント 315 において、効率は、利得コントローラ 240 がトランシーバ 250 a ~ n のうちの 1 つを無効にし得るレベルに、減少された $EIRP$ とともに減少する。利得コントローラ 250 は、さらに、有効のままであるトランシーバ 250 の利得をそれらの個々の最大線形値に同時にリセットし得る。一実施形態では、トランシーバ 250 a ~ n のうちの 1 つのみが無効にされ、 $n - 1$ 個のトランシーバ 250 が有効のままであるとき、 $EIRP$ は、最大許容 $EIRP$ ステップよりも小さいことがある、値、 $20 * \log(n / (n - 1)) \text{ dB}$ によって定義される $EIRP$ ステップによって低減され得る。 $EIRP$ ステップは、たとえば、ポイント 314 からポイント 315 への $EIRP$ の低減を表し得る。ポイント 314 からポイント 315 へのステップが小さいので、有効にされたトランシーバ 250 の PA_{220} の利得を調整する必要はないことがある。

【0042】

[0046] $EIRP$ は、上述のように、 $EIRP$ ステップ値、 $20 * \log(N_{\text{enabled}} / (N_{\text{enabled}} + 1))$ が（たとえば、ポイント 314 における）最大許容 $EIRP$ ステップよりも大きくなるまで、トランシーバ 250 を非アクティブにすることによってさらに低減され得る。言い換えれば、有効にされたトランシーバ 250 と利用可能な総トランシーバ 250 との比がより小さくなるので、連続する $EIRP$ 減分 (decrements) の大きさは増加し得る。したがって、 $EIRP$ の追加の低減は、 $EIRP$ がポイント 315 に向かうまで、有効にされたトランシーバ 250 の 1 つまたは複数の PA_{220} の利得を低減することによって達成され得、ポイント 315 において、有効にされたトランシーバの利得

低減は $20 * \log(N_{\text{enabled}} / (N_{\text{enabled}} + 1))$ に等しい。EIRPをポイント315未満に調整することは、一つまたは複数のトランシーバ250を非アクティブしながら、同時に、他の有効にされたトランシーバ250に関連付けられたPA220の利得をそれらの最大線形値に復元すること(restoring)によって達成され得、以下同様である。これは、妨害されていないアンテナ要素202に関連付けられた有効にされたPA220の最適性能を生じ得る。

【0043】

[0047]一実施形態では、各トランシーバ250、および拡張によって、フェーズドアレイの各アンテナ要素202(アンテナ)は、利得コントローラ240によって決定されたように有効または無効にされるように構成される。個々のアンテナ要素202に(内部接

10

【0044】

[0048]したがって、アレイシステム200のより低い利得のモードにおいて、または、一つまたは複数のアンテナ要素202の部分的な手の遮断中に、図1に関して説明されたシステムにわたる送信および受信効率の有意な改善は、利得コントローラ240がトランシーバブロック250を選択的に有効/無効にするように構成されたときに実現され得る。図3で説明されたようなアレイシステム200の効率は、利得設定 $G_{\text{max}} - 20 \log(N)$ において効率を増加させることができ、ここで、Nはアンテナの数である。

20

【0045】

[0049]図4Aは、本開示による、フェーズドアレイシステムにおける最適な効率を維持するためにトランシーバを選択的に無効にするための方法を示すフローチャートである。図示のように、方法400はブロック410において開始し、フェーズドアレイシステム200がアレイ中の複数のアンテナ要素202を有効にする。一実施形態では、有効にすることは、複数の選択的に有効にされたアンテナ要素202に関連付けられたトランシーバ250に電力を加えること(applying)を指すことがある。別の実施形態では、選択的に有効にされたアンテナ要素202は、アレイ200中のアンテナ要素202の全部を備え得る。また別の実施形態では、利得コントローラ240は、本明細書で開示されるよう

30

【0046】

[0050]ブロック420において、利得コントローラ240は、電力検出器242のうちの1つまたは複数からの入力とRSSI244とを受信し得る。その入力およびRSSI244はまた、検出器出力と総称されることがある。そのような出力は、1つまたは複数のアンテナ要素202における反射電力(reflected power)を示し得る。したがって、検出器出力は、アンテナ要素202のうちの1つまたは複数が妨害されるか、またはさもないければ遮断され得ることを示し得る。一実施形態では、妨害の存在下での(たとえば、関連付けられたトランシーバ250による)継続的送信は、浪費された電力およびより低い効率を生じ得る。

40

【0047】

[0051]ブロック430において、利得コントローラ240は、検出器出力に応答して、影響を受けた(1つまたは複数の)アンテナ要素202に関連付けられたトランシーバ250から電力を除去し得る。一実施形態では、トランシーバ250から電力を除去することは、影響を受けた(1つまたは複数の)アンテナ要素202に関連付けられた送信機/受信機ペアをオフにすることを指すことがある。その結果、アクティブのままであるアンテナ要素202(たとえば、遮断されない(unblocked)アンテナ要素202)は、本明細書で開示されるように、それらの最大効率において動作し続ける。

【0048】

[0052]いくつかの実施形態では、方法400は、検出器出力に基づいて、選択されたト

50

ランシーバ 250 を有効および無効にすることによって、アレイシステム 200 の最大効率を維持するかまたはさもなければ達成するために採用され得る。

【0049】

[0053] 図 4B は、本開示による、フェーズドアレイシステムにおける最適な効率を維持するためにランシーバを選択的に無効にするための別の実施形態を示すフローチャートである。図示のように、方法 450 はブロック 460 から始まり、フェーズドアレイシステム 200 の複数のアンテナ要素 202 が有効にされる。一実施形態では、そのような複数は、システム 200 中のアンテナ要素 202 の全部であり得る。

【0050】

[0054] ブロック 470 において、利得コントローラ 240 は、（たとえば、電力検出器 242 から）電力検出器出力を受信し得る。検出器出力は、システム 200 の最大線形 EIRP に近づく状態での動作を示し得る。一実施形態では、そのような出力は、出力電力レベルと、電力増幅器 220 の利得と、RSSI 244 との間の比較の結果であり得る。検出器出力は、さらに、1 つまたは複数のアンテナ要素 202 の部分的遮断または全遮断を示し得る。ブロック 480 において、利得コントローラ 240 は、影響を受けたランシーバ 250 に関連付けられた電力増幅器 220 のうちの 1 つまたは複数の利得を調整し得る。一実施形態では、「調整すること」は、影響を受けた電力増幅器 220 の利得の増加または減少を含み得る。

【0051】

[0055] ブロック 485 において、電力増幅器 220 の調整された（1 つまたは複数の）利得に応答して、利得コントローラ 240 は、調整された電力増幅器 220 またはそれらに関連付けられたランシーバ 250、アンテナ要素 202、および / あるいはアレイシステム 200 全体の効率の減少を示す（たとえば、電力検出器 242 からの）検出器出力を受信し得る。

【0052】

[0056] ブロック 490 において、利得コントローラ 240 は、さらに、電力増幅器 220 の減少された効率に応答して、影響を受けた（1 つまたは複数の）ランシーバ 250 から電力を除去し得る。一実施形態では、最適性能未満で動作しているランシーバ 250 から電力を除去することは、システム 200 全体の全体的伝送効率を増加させ、残りの有効にされたランシーバ 250（たとえば、遮断による影響を及ぼされていないランシーバ 250）および関連付けられた電力増幅器 220 がそれらの最大効率において動作し続けることを可能にし得る。

【0053】

[0057] したがって、いくつかの実施形態では、利得コントローラ 240 は、フェーズドアレイシステム 200 の最大 EIRP を達成するかまたはさもなければ維持するために、ブロック 470 またはブロック 485 において検出器出力を受信し、ランシーバ 250（および拡張によって、電力増幅器 220）を有効または無効にし得る。

【0054】

[0058] 本開示の実施形態は、特定の実施形態について上記で説明されたが、本発明の多くの変形形態が可能である。たとえば、様々な構成要素の数は増加または減少され得、電源電圧を決定するモジュールおよびステップは、周波数、別のシステムパラメータ、またはパラメータの組合せを決定するために変更され得る。さらに、様々な実施形態の特徴は、上記で説明された組合せとは異なる組合せで組み合わせられ得る。

【0055】

[0059] 当業者は、本明細書で開示される実施形態に関して説明された様々な例示的なブロックが様々な形態で実装され得ることを諒解されよう。いくつかのブロックは、概してそれらの機能に関して上記で説明された。そのような機能がどのように実装されるかは、全体的なシステムに課される設計制約に依存する。当業者は、説明された機能を特定の適用例ごとに様々な方法で実装し得るが、そのような実装の決定は、本発明の範囲からの逸脱を生じるものと解釈されるべきではない。さらに、ブロックまたはステップ内の機能の

グループ化は、説明を簡単にするためのものである。本開示から逸脱することなく、特定の機能またはステップが、あるブロックから移動され得るか、またはブロックにわたって分散され得る。

【 0 0 5 6 】

[0060] 本明細書で開示された実施形態に関して説明された様々な例示的な論理ブロック、たとえば、利得コントローラ 240 は、汎用プロセッサ、デジタル信号プロセッサ (DSP)、特定用途向け集積回路 (ASIC)、フィールドプログラマブルゲートアレイ (FPGA) または他のプログラマブル論理デバイス、個別ゲートまたはトランジスタ論理、個別ハードウェア構成要素、あるいは本明細書で説明された機能を実行するように設計されたそれらの任意の組合せを用いて実装または実行され得る。汎用プロセッサはマイクロプロセッサであり得るが、代替として、プロセッサは、任意のプロセッサ、コントローラ (たとえば、本明細書で開示される利得コントローラ 240)、マイクロコントローラ、または状態機械であり得る。プロセッサはまた、コンピューティングデバイスの組合せ、たとえば、DSP とマイクロプロセッサとの組合せ、複数のマイクロプロセッサ、DSP コアと連携する 1 つまたは複数のマイクロプロセッサ、あるいは任意の他のそのような構成として実装され得る。

10

【 0 0 5 7 】

[0061] 本明細書で開示された実施形態に関して説明された方法またはアルゴリズムのステップは、直接ハードウェアで実施されるか、プロセッサによって実行されるソフトウェアモジュールで実施されるか、またはその 2 つの組合せで実施され得る。ソフトウェアモジュールは、RAM メモリ、フラッシュメモリ、ROM メモリ、EPROM メモリ、EEPROM (登録商標) メモリ、レジスタ、ハードディスク、リムーバブルディスク、CD-ROM、または任意の他の形態の記憶媒体中に常駐し得る。例示的な記憶媒体は、プロセッサが記憶媒体から情報を読み取り、記憶媒体に情報を書き込むことができるようにプロセッサに結合され得る。代替として、記憶媒体はプロセッサに一体化され得る。プロセッサおよび記憶媒体は ASIC 中に存在し得る。

20

【 0 0 5 8 】

[0062] 開示された実施形態の上記の説明は、当業者が本開示を製作または使用できるように与えられた。これらの実施形態への様々な修正は当業者には容易に明らかであり、本明細書で説明された一般原理は、本開示の趣旨または範囲から逸脱することなく他の実施形態に適用され得る。したがって、本明細書で提示された説明および図面は、本開示の現在好ましい実施形態を表し、したがって、本開示によって広く企図される主題を表すことを理解されたい。本開示の範囲は、当業者に明らかになり得る他の実施形態を完全に包含することと、したがって、本開示の範囲は、添付の特許請求の範囲以外のものによって限定されないこととをさらに理解されたい。

30

【 図 1 】

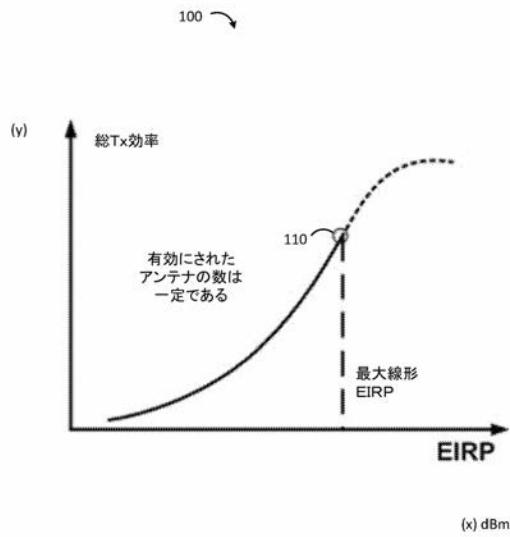


FIG. 1

【 図 2 】

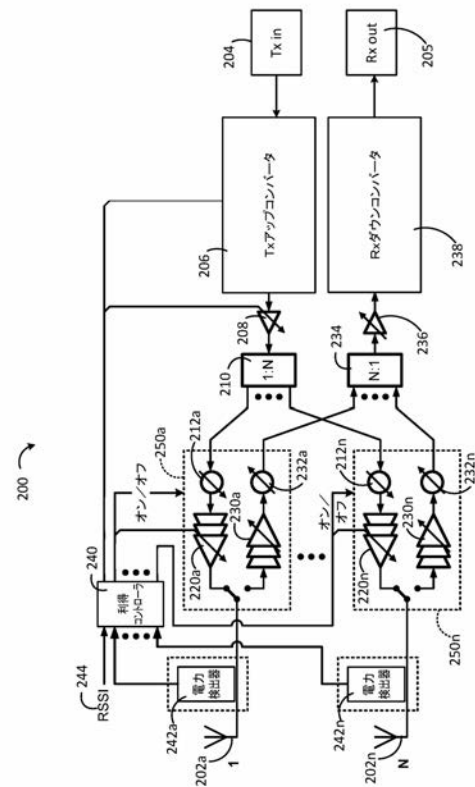


FIG. 2

【 図 3 】

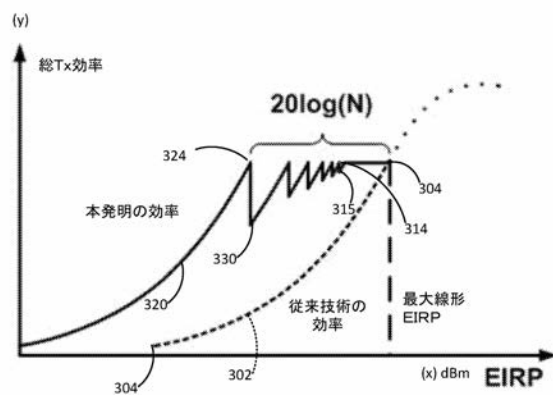


FIG. 3

【 図 4 A 】

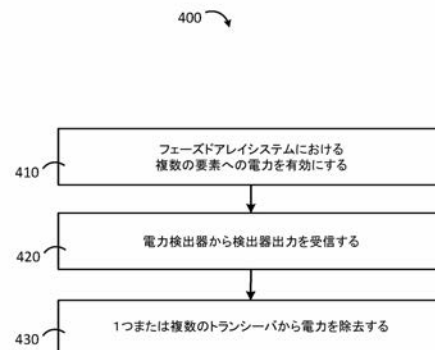


FIG. 4A

【図 4 B】

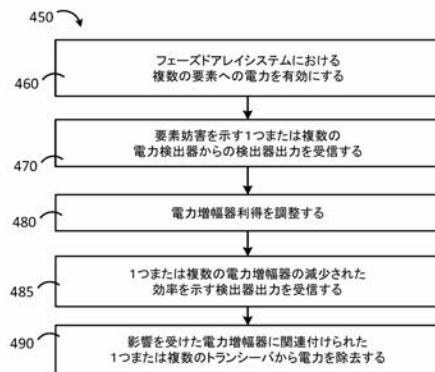


FIG. 4B

【国際調査報告】

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No
PCT/US2016/012539

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

INV. H04W52/52 H04B17/13
ADD. H03G3/30 H04W52/42

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

H03G H04W H01Q H04B

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

EPO-Internal, WPI Data

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	WO 98/57442 A2 (ERICSSON TELEFON AB L M [SE]) 17 December 1998 (1998-12-17) claims 1-21 figures 4,5 page 5, lines 9-11 page 9, lines 25-27	1-28
A	MARK A GOUKER ET AL: "A 16-Element Subarray for Hybrid-Circuit Tile-Approach Spatial Power Combining", IEEE TRANSACTIONS ON MICROWAVE THEORY AND TECHNIQUES, IEEE SERVICE CENTER, PISCATAWAY, NJ, US, vol. 44, no. 11, 1 November 1996 (1996-11-01), XP011036602, ISSN: 0018-9480 the whole document	1-28
	----- -/--	

☒ Further documents are listed in the continuation of Box C.

☒ See patent family annex.

* Special categories of cited documents :

"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date

"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

"Z" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search

29 March 2016

Date of mailing of the international search report

05/04/2016

Name and mailing address of the ISA/

European Patent Office, P.B. 5818 Patentlaan 2
NL - 2280 HV Rijswijk
Tel. (+31-70) 340-2040,
Fax: (+31-70) 340-3016

Authorized officer

van der Pol, Edwin

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No

PCT/US2016/012539

C(Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	KLEIN JONATHAN ET AL: "Improving cubesat downlink capacity with active phased array antennas", 2014 IEEE AEROSPACE CONFERENCE, IEEE, 1 March 2014 (2014-03-01), pages 1-8, XP032607511, DOI: 10.1109/AERO.2014.6836238 [retrieved on 2014-06-16] paragraph [0002] figures 1,2,3 -----	1-28
A	US 5 038 146 A (TROYCHAK JOSEPH A [US] ET AL) 6 August 1991 (1991-08-06) claims 1-13 figures 1,2A,2B,3 column 1, line 38 - line 43 column 2, line 36 - line 65 column 3, line 63 - column 4, line 26 -----	1-28
A	US 2010/142590 A1 (HOEHNE THOMAS [FI] ET AL) 10 June 2010 (2010-06-10) claims 1-23 figure 2 paragraph [0002] - paragraph [0004] paragraph [0030] - paragraph [0038] -----	1-28

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

Information on patent family members

International application No

PCT/US2016/012539

Patent document cited in search report	Publication date	Patent family member(s)	Publication date
WO 9857442	A2	17-12-1998	AU 741431 B2 29-11-2001
			AU 8046198 A 30-12-1998
			BR 9809990 A 01-08-2000
			CA 2293334 A1 17-12-1998
			CN 1267409 A 20-09-2000
			EP 0986861 A2 22-03-2000
			US 6334050 B1 25-12-2001
			WO 9857442 A2 17-12-1998

US 5038146	A	06-08-1991	NONE

US 2010142590	A1	10-06-2010	CN 101548479 A 30-09-2009
			EP 2095535 A1 02-09-2009
			KR 20090087036 A 14-08-2009
			US 2010142590 A1 10-06-2010
			WO 2008068547 A1 12-06-2008

フロントページの続き

(81)指定国 AP(BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), EA(AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), EP(AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OA(BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG), AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IR, IS, JP, KE, KG, KN, KP, KR, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US

(72)発明者 アパリン、ブラディミル

アメリカ合衆国、カリフォルニア州 9 2 1 2 1、サン・ディエゴ、モアハウス・ドライブ 5 7
7 5

(72)発明者 アラビ、カリム

アメリカ合衆国、カリフォルニア州 9 2 1 2 1、サン・ディエゴ、モアハウス・ドライブ 5 7
7 5